

白河市文化芸術推進審議会第2回会議 会議録

- 日 時 平成3年3月12日（金）15：00～16：50
- 場 所 市役所本庁舎 201会議室
- 出席者 宮田委員、久保田委員、浅川委員、小林委員、山本委員、
中上委員、青砥委員、和知委員、須藤委員（委員9名）
小峰課長、鈴木係長、鈴木主任主査、我妻副主査
- 欠席者 本宮委員
- 傍聴者 なし
- 配布資料 次第
 - 資料1 令和2年（1～12月）主な実績等【追加・修正】
 - 資料2 令和2年度白河市ふるさと文化振興基金への寄附状況について
 - 資料3 令和2年度白河市文化振興補助事業の状況について
 - 資料4 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金活用事業について
 - 参考1 白河市文化芸術推進審議会 委員名簿
 - 参考2 白河市文化芸術推進審議会 会議座席表
- 内 容
 - 1 開 会 15：00
 - 2 あいさつ
（白河市文化芸術推進審議会会長よりあいさつ）
 - 3 議 事
 - (1) 協議第1号 白河市文化芸術推進基本計画における令和2年（1～12月）主な実績等に対する意見について
（事務局から事前配布した「令和2年（1～12月）主な実績等」および資料1の説明）

委員からの主な意見等

（狛犬巡りによる文化発信事業について）

- ・狛犬と唐獅子が混同される場合もあるので、違いを説明できるようにするべきではないか。

⇒今回のパンフレットは、写真や所在地を掲載しながら芸術作品としてまとめるもので、文化財としての研究や分類はこれからになる。コロナが落ち着いた頃に、狛犬を見学に多くの方に白河に来ていただくようなきっかけとしたい。

(小峰城の整備について)

- ・市外から来る方に「何を整備しているのか」をよく聞かれる。「今こんなことをして、完成後はこんな形になる」というプリントを飲食店等に配布し、状況が「見える化」したほうがよい。
 - ・小峰城は駅からのアクセスが抜群に良い。立地条件を活かし、より史跡の価値を高めるため、将来的に本丸が整備されたら素晴らしいと思う。名古屋城は、本丸御殿の修復により関心度、注目度が急上昇している。
- ⇒担当している文化財課に意見として伝える。

(コミネス関係事業について)

- ・昨年 11/3 にコミネス混声合唱団が東京混声合唱団と合同でステージ発表を行っているので、実績として記載すべきではないか。
- ・文化施設のスタッフ研修会の実績がないが、そうした研修会の必要性は高いと思われる。
- ・「いきいき健康マイレージ事業」のポイント利用施設にコミネスが登録されているが、実績がないので、経費がかかっているのであれば事業の見直しが必要ではないか。

⇒コミネス混声合唱団と東京混声合唱団との合同ステージについては、基本施策5の「文化芸術活動への支援」および重点施策1「文化芸術に親しんでいる市民への支援の充実」の実績として記載すべきであった。スタッフ研修会については、必要性は認識しているので、今後、状況を見ながら取り組んでいきたい。「いきいき健康マイレージ」については、制度が有効活用されるよう担当課の健康増進課と協議したい。

(実績の記載、評価指標の設定について)

- ・市民オーケストラの楽器購入のため、NTT ドコモより復興支援として500万円の寄付金をいただいているが、実績書に記載してもよいのではないか。
- ・評価指標として「白河市文化芸術アカデミー」の設立があるが、具体的な計画や設立の見込みがないのであれば、評価指標から外してもよいのではないか。

⇒NTT ドコモの寄付金については、基本施策5の「文化芸術活動への支援」および

重点施策3「本市オリジナルな活動団体の組織」の実績の一部として紹介してもよいと思われる。また、「白河市文化芸術アカデミー」については、設立の予定はないので、次回から評価指標から除外したい。

(旧脇本陣柳屋旅館建物蔵座敷について)

- ・新たに指定管理者となった団体はどこか。
⇒株式会社楽市白河となる。

(大田原市との交流について)

- ・市やコミネスの事業としての関わりはできなかつたようだが、大田原市との個人的なつながりで、復興音楽祭のゲスト(小原孝氏)の招へいができた。
⇒市だけではなく、民間レベルの交流が盛んになることが重要である。

(芭蕉白河の俳句賞について)

- ・小中学生の作品やブラジルなど海外からの作品もあり素晴らしい。今後もぜひ続けて開催してもらいたい。
- ・小中学生の作品について、中山義秀記念作文コンクールもそうだが、俳句賞の作品も、夏休みの宿題として課されており、学校で指導されている状況ではない。「学ぶ」というよりは、俳句などは「ことば遊び」で終わってしまっているような感じを受ける。須賀川市では、文化団体による小中学校への出前講座を実施しており、高校生も角川賞を受賞するなど、文芸文化の学びが定着している。白河市でも、そのような取り組みがなされることを期待する。
⇒俳句賞は、文芸文化の普及や交流人口の拡大に資する事業として、今後も工夫しながら継続していく。小中学生へのアプローチとして、学校への出前講座の企画など、工夫していきたい。

(コロナ禍での一年について)

- ・コロナの影響がある中、一定の実績があり評価できる。コロナ禍で分かったこととして、平田オリザ氏は、「命の次に大事なものは、ひとり一人違う。文化はそのひとつになる可能性がある。」と述べており、こうした時期に工夫して文化活動を行うことは大切なことである。また、思いやり条例を制定しているが、思いやりの大切さと同時に、文化の大切さをメッセージとして伝えることが必要である。
⇒思いやりの大切さ、文化芸術の大切さを文化事業を通じて伝えていくことに努力していきたい。

(ビエンナーレについて)

- ・まちなかでの展示に多くの人を訪れた。展示は、博物館や図書館だけではなく、お寺や商店街などいろいろな場所で発表ができることを市民は理解した。エマノンも写真の展示会場として提供したが、フィルムコミッションなどとの連携も今後期待できる。

(文化芸術と STEAM 教育について)

- ・小中学生の学びとして、STEAM 教育 (Science Technology Engineering Art Mathematics) が注目されている。5つの分野が 21 世紀の能力となる。アートや音楽、舞台芸術と教育が連携し、中高生の教育プログラムとして分野横断的な事業ができればよい。白河出身者のアーティストを活かして、芸術と教育を連携するなどの展開が考えられる。
⇒文化芸術そのものの価値に着目するのみならず、文化芸術と産業や教育、福祉などを結びつける事業を通じて、小中学生にアプローチしていく視点を持ちたい。

(社会的包摂について)

- ・社会的包摂という考え方は、国際性・多様性のある社会で生きていくということである。そういう意味で、俳句賞でブラジルとつながっているということは、意味のあることで、文化を通じて、人種やバックグラウンドが違う人々と一緒にできるいい事業である。
また、市内に住んでいる外国人へのアプローチも考えていくべきで、バックグラウンドを超えてつながる何らかの仕組みや施策を考えていってもらいたい。友好都市との協力関係で、何かできることがあるかもしれない。
⇒市内に住んでいる外国人を包摂していくという視点は、これまで考えてきていない部分である。そうした部分を含めて、文化芸術事業にどのように包摂性を落とし込んでいくか考えていきたい。

(2) その他 特になし

4 その他

- (1) 令和2年度白河市ふるさと文化振興基金への寄附状況について
- (2) 令和2年度白河市文化振興補助事業の状況について
- (3) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金活用事業について

5 閉会 16:50